

兵庫県の植物資源と保全

高橋 晃

兵庫県立人と自然の博物館

Plant resources and the conservation in Hyogo Prefecture

Akira Takahahi

Museum of Nature and Human Activities Hyogo

Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546, JAPAN

takahasi@hitohaku.jp

兵庫県は近畿地方で最も面積が広く、北は日本海、南は瀬戸内海・太平洋に面している。北部の但馬地方は山岳地帯で冬の降雪が多い一方、瀬戸内地方は少雨・乾燥の気候である。このように県内の降水量の地域差が大きいため、自然環境は多様で生育する植物の種数も多い。また全県的に低山・丘陵地が多く、山間地の奥にまで農業等による人間の活動の影響が少なく、草地やため池が維持されてきたことも植物相をさらに豊かにしている要因といえる。

瀬戸内に面した県中部の東播磨を中心とする地域は、全国有数のため池地帯でもある(図1)。多くは山田錦をはじめとする稲作用のため池で、丘陵地の山際の谷筋などに設けたため池から平地の田んぼに水を供給している。このようなため池ではしばしば周囲のとくに上流側に湿地ができ、日当たりのよい湿った草地に湿生植物が生育している(図7)。

このようなため池は、農業人口の減少により水田が放棄されると土手の草刈りがされなくなり、池の水質も悪くなり、やがて邪魔者扱いをされていく。ある程度の広い面積があり、また平坦なので、埋め立てられて工場や学校、公立施設などの用地にされていく。今回の発表では、東播磨の北部に位置する西脇市の天神池で、約50年前に採集された標本から推定される当時の植物の生育状況と、現在のその池の周りの状況とを比較し、どのように変わったのかを考えてみる。

天神池の現状

天神池は、一部が埋め立てられ道の駅や西脇市スポーツセンターなどの施設が建てられている。施設側の岸はコンクリートで護岸され、水際まで近寄れるように作られている。施設の反対側はコナラ、ハンノキ、ソヨゴ、イヌツゲなどの雑木林で、一部は湿地状に陸が張り出し植栽されたキショウブが広がっているが、ミゾソバ(図2)、チョウジタデ(図4)、ヒメシロネ、サワヒヨドリ、ニッポンイヌノヒゲ、ミズガヤツリ、サンカクイ(図3)など、この辺りの湿地ではごく一般的な植物もはえている。貴重種としてはミズトラノオ(図6)が見つかった。

約50年前の状況

県立西脇高等学校の生物の教師だった田中兼治氏が、1953年から64年にかけて西脇市各地で植物採集し、天神池周辺の植物標本も県立人と自然の博物館に収蔵されている。この標本によると天神池周辺には湿地が広がっていたようで、アイナエ、イヌセンブリ、ヒメミクリ、シズイ、サギソウ（図5）など、現在の兵庫県ではレッドデータブックに掲載されている貴重種が多数含まれ、それらがふつうに生育していたことを物語っている。

これまでの調査で明らかになっている天神池周辺の現状を表1に示した。ミズトラノオ以外は今のところ見つかっておらず、恐らくなくなったと思われる。市内の他のため池周辺には、ミズトラノオ、ノハナショウブ、ヒメミクリ、カガシラ、サギソウが生育している

50年前にみられた植物	兵庫県レッドデータブック	現 状
ツルフジバカマ	B	なし
ヒメノハギ	A	なし
アイナエ	B	なし
イヌセンブリ	C	なし
ミズトラノオ	B	生育 (100株程度)
ゴマクサ	B	なし
スプタ	B	なし
ノハナショウブ	C	なし
ヒメミクリ	B	なし
シズイ	A	なし
ミカワシンジュガヤ	B	なし
カガシラ	B	なし
サギソウ	B	なし

表1. 約50年前の天神池周辺で見られた貴重種の現状

ことが分かっている。今後調査が進めばもう少し見つかると思われるが、池および周辺の変化が激しく、多くの植物種が消えたことは明らかである。

保全に向けた博物館の取り組み

行政的な保全策はもちろんいろいろな形で行われているが、実際に有効なのは地元の人たちがそこにある植物やため池について知り、将来どうするのかを自分たち自身で考えることである。兵庫県立人と自然の博物館では、このように地域の人たちに考えてもらう場を作ることが博物館の役割として重要と考え、現状調査や野外観察会、シンポジウム、展示会などを地元の人たちを巻き込んで一緒に実施している。

SUMMARY

Hyogo Prefecture is very famous for its large numbers of irrigation ponds. Around the irrigation ponds we can see many plant species growing on the wetlands. In the case of Tenjin-ike pond in Nishiwaki-city, it was investigated that how the flora in the pond and its periphery had been changed during last 50 years. A few years ago Tenjin-ike was reclaimed partly, and now the reclaimed land and the circumference of the pond is keeping in good artificial condition. Then it is known that many endangered species have been disappeared during last 50 years from there.

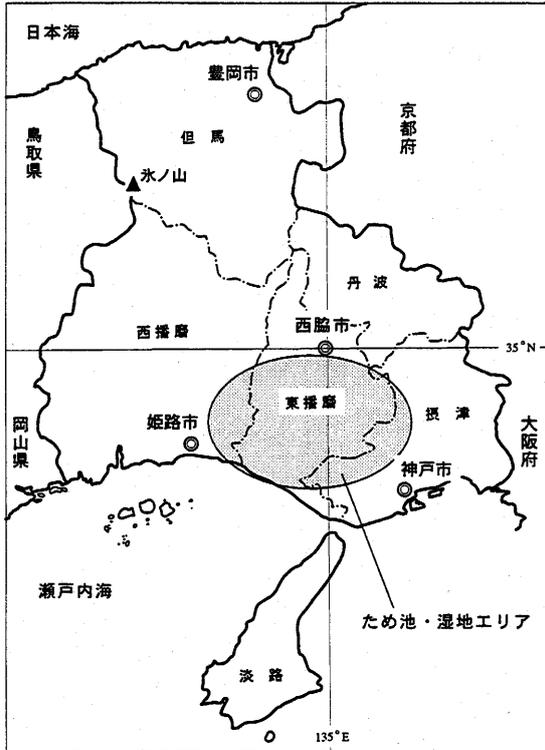


図1. 兵庫県におけるため池・湿地の多い地域



図2. ミゾソバ

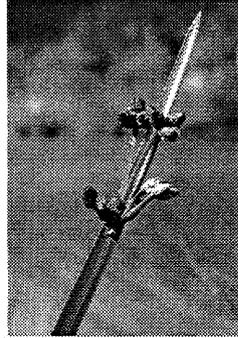


図3. サンカクイ



図4. チョウジタデ



図5. サギソウ



図6. ミストラノオ



図7. ため池と湿草地